



## 東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

2016～17年度テーマ **新鮮な全員参加の輪を広め 夕焼けのまち永久に照らそう**

## 第257号

### 第 257 回例会

日 時:平成 29 年 3 月 9 日 (木) 11:30～13:30

場 所:八王子エルシィ

出席者:61 名 出席率 96.8%

(会員総数 67 名 欠席 2 名 休会 4 名)

#### 1. 開 会 **山崎光子例会副委員長**

第 257 回例会開催を告げ配布資料を確認する。



#### 2. 挨拶 **岩島 会長**



本日は、例会に引き続いて生涯学習サロンの第 1 週が始まります。楽しいサロンとなりますよう、会員各位がそれぞれの持ち場で、ご協力いただきますようよろしくお願い致します。

先月 23 日に行なわれた開講式の特別講話「極地観測とオーロラの話」は大変好評で、4 月 23 日の野外サロンでは南極・北極科学館に行くことが予定されており、参加者も多数になることが期待されます。

さて、昨年 10 月の竹元会員による卓話「米百俵海を渡る」の国際支援事業に関連したことです。ホンジュラスで進められていた学校整備プロジェクトの 100 校が達成され、この 3 月 4 日に都内で、竹元会員はじめ関係者による祝賀式が開催されました。3 月 1 日の毎日新聞紙上に大きく取り上げられていま

した。誠にありがとうございます。

本日の卓話は、プロバスケットボールチームの東京八王子トレインズの和田尚之代表から「全てはみんなの笑顔のために」というお話を伺います。このチームが八王子市の名と共に全国に名前を知られるように応援しようではありませんか。

という

#### 3. ハッピーコイン披露

武田副会長からハッピーコイン 13 件の披露があ



りました。(4～5 ページに掲載)

#### 4. パースデーカード贈呈

3 月生まれの阿部治子会員、根本照代会員、荻島会員、大串会員、田中会員、土井俊雄会員、竹元会員の 7 名の方々に、池田会員お手製のパースデーカ



ードが会長から贈られました。(阿部会員、竹元会員は欠席) おめでとうございます。

## 5. 卓 話

### 『全てはみんなの笑顔のために』

#### ～プロバスケットチームの現状と

#### 東京八王子トレインズの活動について～

#### 和田 尚之代表



東京八王子トレインズは、八王子市を拠点としたプロバスケットボールチームです。

その代表を務めております和田尚之です。2012年に京王線狭間駅前に多摩地区最大級の体育館エスフォルタアリー

ナ八王子が建設されることを知り、プロバスケットチームの立ち上げに取り組みました。

私は八王子市元八王子町の出身です。元々ミニバスケットが盛んで、バスケットの強豪校も多い八王子市でプロチームを立ち上げ、地域を盛り上げたいという熱い想いがございました。私自身も選手としてクラブチームを立ち上げ、小・中学校訪問や地域イベントに積極的に参加してプロ参入への支援を募ってまいりました。

プロリーグへの参入には、いくつかの厳しい条件がありますが、2015年、協賛金3,070万円(3,000万円以上が条件)、協賛署名20,000人分を集めることができ、プロリーグへの参入が決定しました。

昨年秋にはBリーグが発足し、現在は3部リーグでリーグ戦を戦っております。シーズンは10月～5月、リーグ優勝、入れ替え戦を勝ち抜けば2部に昇格することができますので、八王子の名を高めるべく、必死に戦っております。

ここでプロバスケットボールの現状についてご参考までにご説明をしておきます。

日本のプロバスケットボールのトップリーグは、2つのリーグが並立する状態が続いていました。国際バスケットボール連盟(FIBA)から両リーグの併合を促されたものの実現せず、FIBAから会員資格を停止されるに至りました。そこでサッカーのJリーグの創設に貢献された川淵三郎氏が中心になって検討が重ねられ、一昨年4月に日本プロバスケットリーグ(JPBL)が設立され、Bリーグが発足しました。

Bリーグは一部、二部ともに18チームずつ、三部が9チーム、あわせて45チームが参加し、プロ

バスケットボールに対する新たな人気が高まりつつあるというのが現状です。

チームの勝敗はもちろんですが、リーグに参加する条件として、「明確な理念を定めること」や「チーム名に地域名を入れる」ことなどに加え、チームを運営する会社の経営面も厳しく審査され、チーム力、経営力の両方が揃わなければ上の部に上がることはできません。これからも地域との連携を図り、八王子市からのご支援もいただきながら、経営基盤を固めていきたいと考えています。

私の長年の想いとして、地元プロチームを作った暁には、学校訪問を積極的に行いたいということがありました。チームスローガンに「子どもたちに夢と未来を」とあるように、地元プロチームがあるという環境を最大限に子どもたちに伝え、感じてもらいたいと願っています。

現在はトレインズを応援してくださる企業数も115社、ファンクラブも千名を超え、来場者も1万人を上回るなど、着実に地域に知られるようになりつつあります。



八王子には小学校70校、中学校37校と107校もの学校がありますので、できる限り多くの小・中学校と保育園を訪問するよう努めています。体育や道徳の授業に生徒さんの中に入って参加し、さらに給食も一緒に食べるなど、食育にも力を入れています。

八王子市の観光特使にも任命していただき、地域のイベントや八王子市主催のイベントにも数多く出演しています。選手は全員八王子に居住するなど、地域とともに発展、前進していくことをチーム存立の基盤としているからです。

今後は、市内の商店街と協力して、地域と協調した発展をさらに強固にしていきたいと考えています。トレインズのフラッグがずらっと翻る「トレインズストリート」を作ることが目標で、そこで選手たちと一緒に通りの清掃活動やイベント開催ができればなんとうれしいことでしょう。

「八王子市にはトレインズがある」、「トレインズとともに地元が盛り上がっている」。八王子市民の皆様そんなふうに思っただけのようにこれからも活動を続けてまいります。

## 6. 幹事報告 飯田幹事

八王子に対する愛を込めて、各方面から地域と接触し、チームを強くするよう育てている和田さんの姿に感動いたしました。私も出身地のサッカーJ1のヴァンフォーレ甲府の大ファンですが、なんといつでも地元が大切なのです。

Dr.肥沼の顕彰碑建立の寄付も大分進んでいると伺っています。今後とも会員の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

## 7. 各委員会活動報告

### (1) 例会委員会 山崎光子副委員長

第256回例会の出席状況の報告

### (2) 情報委員会 有泉委員長

「プロバスだより第256号」お手元にお届けいたしました。今回は吉田会員が編集を担当されました。皆さんの協力で、記事がデジタル化され、メールの交換等効率化されました。久しぶりの作業で懐かしかったと伺っています。

### (3) 会員委員会 土井俊雄委員長

会員委員会としては、会員の動静に関する情報になるべく早く、細かに皆様に伝えるべく努めておりますし、今後もそうしていく所存です。

このたび、阿部幸子さんが、体調との関係で、休会となりました。

### (4) 研修委員会 池田委員長

卓話につきましては、毎月多様なお話を聞くことができ、楽しみです。

今月は、わがプロバスクラブの方向と同じく、スポーツを通じて地域の活性化に役に立つよう頑張っているプロバスケットチームのお話で、日々のご努

力に感銘したところです。

4月は佐々木秀勝会員にお願いしてあります。

### (5) 地域奉仕委員会 持田委員長

さる23日の開講式は参加者も多く、興味深い、良いお話を伺いました。一般参加者71名、会員参加者52名、来賓11名の計134名もの多数の方々が聴講しました。

国立極地研究所の宮岡教授による特別講話「極地観察とオーロラ」ですが、現地経験者としてのリアルなお話を伺うことができ、とりわけ南極に現われる多様なオーロラ群は、素敵な映像でした。

本日から学習サロンの各講座がはじまりますが、とりわけ話し手の会員の皆様にはお世話になります。サロン形式を重視し、お互いにコミュニケーションをよく取られて、よい成果が得られますよう進めていただきたいと思います。

また「野外サロンへのお誘い」のパンフレットを配布させていただき、申込・受付を開始いたしますが、例会委員会、会員委員会の皆様よろしくお願いいたします。

### (6) 八王子「宇宙の学校」 下山PJリーダー

さきほどの話は「スポーツを通じて町おこしを」といったことを目指して活躍されているということでしたが、八王子宇宙の学校は、宇宙を素材に子どもさんたちの心に火を付けるということがコンセプトです。子どもの心の中にある冒険心や好奇心、さらには挑戦する匠の心を育て、未来に役立つ若者に成長してほしいと願って、今年も頑張ります。

新年度のことについては、このほど、今年度計画の大綱がほぼまとまりましたので、次回の例会でお知らせいたします。昨年700組を大きく上回る参加者を得ましたが、今年も昨年度と同規模の募集、実施になる予定です。

## 8. 同好会活動報告

### 古典芸能鑑賞会 池田会員

古典芸能鑑賞会事務局からのお知らせです。第1回の鑑賞会は6月18日(日)です。

千駄ヶ谷の国立能楽堂で、比較的初心者向きのお能を観賞します。予約の都合がありますので、参加申込は今週日曜日までとします。

## ゴルフ同好会

## 矢島会員

ゴルフ同好会のコンペを4月28日(金)にGMG八王子ゴルフクラブで開催します。メンバーにはご案内を配布してありますが、それ以外の方でも多くの皆さんに参加していただければと期待しています。

## シニア・ダンディーズの活動

## 立川会員

お配りしてありますパンフレットのとおり、平成29年春の地域安全運動の一環として「八王子防犯のつどい」ミニ・コンサートが、3月22日いちょうホール(小ホール)で開催されます。わがプロバスクラブのシニア・ダンディーズも出演します。皆様のご来場をお待ちしています。

## 9. その他

## 岩島会長

「Dr.肥沼の偉業を後世に伝える会」についての報告です。

Dr.肥沼慰霊祭記念事業として、昨日いちょうホールにおいて学生達による演劇「七十一年目の桜」が上演され、観劇しました。胸が詰まる思いでした。

Dr.肥沼の顕彰碑は、八日町交差点近くの中町公園に9月上旬に建立されます。

教育出版社から出る平成31年度 中学校社会科の教科書(全国版)にDr.肥沼の業績が載るそうです。

「八王子の野口英世 ドクター・肥沼を知っていますか」という本が桜美林大学川西重忠教授の著で出版されました。回覧します。



## 10. プロバス賛歌斉唱

## 11. 閉会

## 武田副会長

確定申告はお済みですか。現役時代3月は決算や



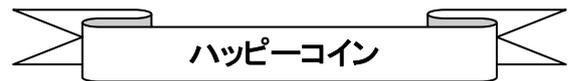
納期確保など多忙な月でした。

さて今日の卓話は、プロバスケットチーム「東京八王子トレインズ」の和田代表の講演でしたが、「熱意があれば道が開ける」との思いを強くしました。

サポーターをしている知人の話では、八王子は昔から交通の要衝で、多数のトレインが往来していたことから名付けられたとのこと。和田代表の強い郷土愛が感じられますね。

八王子にはプロスポーツが一つしかなく、社会人クラブ「アローレ八王子」もJリーグ入りを目指して頑張っています。

いよいよサロン第1週が始まります。一般会員を温かくお迎えし、楽しく進めていただきたいと思います。



◆本日、サロン第一週の盛会を祈って!!

杉山 友一

◆第21回生涯学習サロン開講式・特別講話はとても良かった。「米百俵学校」100校達成おめでとうございます。

岩島 寛

◆サロンの「一期一会」の茶の会でお点前をさせていただくことになりました。良い機会に感謝です。

有泉 裕子

◆開講式が皆さまのご協力のお蔭で無事修了しました。大入り満員でした。ありがとうございました。本日から本番のサロンが始まります。地域奉仕全員で頑張りますが、ご協力よろしく御願います。

持田 律三

◆八王子警察の八王子市民防犯の日に、シニア・ダンディーズが出演します。3月22日午後2時からいちょう小ホールです。

どうぞ応援に来てください。入場無料です。

立川富美代

◆元気で82才となりました。感謝です。

大串 延子

◆八十才の大台まであと1年。「いつでもあの世」という諦観と「折角の命を大切にしよう」とのせめぎ合いが続きます。

土井 俊雄

◆もうすぐ誕生日です。これまで元気に過ごせたことに感謝し、これからもプロバスクラブと共に成長し、人生を楽しみたいと思います。 根本 照代

◆1月に両目の白内障手術を受け、2月下旬に新しいメガネが出来上がりました。ハッキリ クッキリで視界良好です。 馬場 征彦

◆1週間ほど前から、我が家の庭で、「ウグイス」が鳴いています。「ウグイス」の来鳥は14～5年振りで、「さえざり」に癒されています。 野口 浩平

◆先日横浜ミナトミライ 21 ホールで、ケルビーニのレクイエムを歌いました。心が洗われました。

八木 啓充

◆目黒の雅叙園で有形文化財の百段階と七つの部屋に飾られたお雛様を觀賞してきました。時空を超えた美に感動しました。 飯田富美子

◆孫娘が4月に『小学1年生』になります。今、日本の小学校では『俳句』の授業があります。私は、彼女と「俳句通信」して行きたいです。彼女が『成人するその日まで』続けます。あと14年です。

山形 忠顯



橋を渡って

古川 純香



今日も向かう、アノ橋を渡ろうと、あそこには、白磁の急須、朱泥の宝瓶、染付茶碗、唐銅托子、その他のお道具さん、そして届茶、玉露、煎茶、番茶さん、何よりもそれ等を手助けする人々、皆が寄り合

って互いを活かすお手前（芸術的所作）がある。  
今日のお手前は、お月見のソバ茶かな、あの人の誕生日を祝する花香煎かな……足音たかく渡る一時……始めましょう！！と云いつつお手前の稽古、静ながら熱気がある。そこには競争、勝敗、疲労、遠慮……などなどの人間界が遠く感じられる。まるで心の奥にひそんでいる魂がゆさぶられる様に……。

そして時が過ぎ、生活の場へと、歩調を早めに橋を渡る。

只今……と玄関を開く。急いで台所に立つ。そこにはビッグなお道具さんが待っている。見馴れた

人々と夕食、食後のお茶を大柄なお茶碗でフーフーと音を立て頂く。フト思う、似ているがそうではない。

アチラとコチラの意識の違いか……。三次元の人間界とアチラはチョッピリ違う。芸の世界は橋を渡る日を待つ。稽古の積み重ねが、数々大小の茶会へとなる。または諸外国の人々との茶道の交流会とつながる。大きい行事ともなると渡る橋もとても高く立派に見えて、ドキリとする。カケ足とはいかず、体全体の重みをかけてわたる。例えハアハア一息をついても……。

幼稚な文で恐縮です。若かりし頃の思い出、或いは劇的体験など考えつつ日頃の心象風景の一端となつてしまいました。

しかしこれからの橋を渡っては、天に昇るごとく高く……そして戻れないのでは……などと……思つてしまいます。

### 「絵画の潮流展」を観て

佐々木 正



3月中旬の、とある日急遽鎌倉まで行かねばならぬ所用が生じたことから、ついでに横浜の「そごう美術館」にでも立ち寄ろうかと考えて、インターネットで検索したところ

「明治から昭和の日本画と洋画 絵画の潮流展」という企画展が開催されていたのは誠に幸運であった。

江戸時代後期の絵画は、いうまでもなく浮世絵が中心。ゴッホやゴーギャン、モネはじめ多くの西洋の画家に大きな影響を与えたことはよく知られているところである。

次の時代、明治維新による日本の近代化は、政治的背景や社会状況、学問、技術など、全てといってよいくらい多くを西洋から学んできたが、美術界の状況も同様で、西洋が規範となって変革が進んでいったことは紛れもない事実である。

鮭が吊るされている絵で有名な高橋由一に代表されるような西洋美術の迫真の写実から始まった日本の西洋美術は、アメリカからやってきたフェロノサによる日本美術の優秀性の高い評価もあり、東京美

術学校が開校し、岡倉天心とフランス帰りの黒田清輝との軋轢を経て、天心、横山大観、橋本雅邦、下山観山らによる日本美術院が創立された。

一方で、黒田の採り入れた西欧の印象派の画風から影響を受け、二科会の結成や草土社、独立美術協会が設立されるなど、洋画、日本画を問わず多くの絵画グループが立ち上げられ、その活動の中で梅原龍三郎、安井曾太郎、東郷青児、岸田劉生、林武、中川一政はじめ、多くの有名画家の活動が明治、大正初期にかけて続けられていった。

戦後は、価値観の変革をはじめ大きな変革の中で、バブル期を経て、現在は、技法というより発想を重視した、今までの概念にとらわれない新たな領域の絵画が描かれつつある。

展覧会より横道に逸れてしまったが、それは展覧会の名称が「絵画の潮流展」、展示の中身が、「明治から昭和の日本画と洋画」の副題のごとく、時代的背景を主題としている 60 品目の珠玉の作品ばかりが並んでおり、その時代の流れを少しでも感じてみたかったからである。

ところで今回の作品は、全て仙台の実業家、島川隆哉氏が長年にわたって蒐集した作品ばかりで、蔵王連峰を一望の下に見渡せる遠刈田に、2013 年に開館した島川記念館に展示してある。開館してまだ 3 年、よく知られるところとはなっていないが、秘蔵の絵画を広く観賞してもらおうという趣旨から今回横浜で開催されることとなったという。

展示作品は、前述の作家はもとより、村上華岳、速水御舟、東山魁夷、片岡球子、加山又造、平山郁夫、上村松篁などの日本画家、青木繁、佐伯祐三、荻須高德、小磯良平、小島善三郎、岡鹿之助などの洋画家はじめよくぞ集めたと感心するほどに多彩である。

最後に、強く目にとまった作品を一つだけ紹介しておこう。それは片岡球子の「喜多川歌麿」だ。103 才まで生きた画家は、歴史上の人物を素材にした「面構」シリーズを描いたが、この作品もその中の一つである。

大判なので、絵に近づく前の遠くからとらえられ、鮮やかな色彩と力強い画面構成は、豪放磊落で個性豊かな片岡の人間性と画風が躍動して見えたのは眞眞作家に対する過剰な評価だろうか。

## 俳句同好会便り

私の一句～3月の句会から

河合 和郎

山形忠顯さんの「春暁に覚め得る夢や池ばかり」が朝日俳壇の選に入った。快挙である。ご本人はもとより、メンバー一同大いに意を強くしている。

遠近に兆す下萌え土香る 東山 榮

高点句。春の足音が聞こえる。作者の作風に新境地を開いた素晴らしい作品が生まれた。

追い又手に跳ねる諸子や滋賀の湖 矢島 一雄

琵琶湖の春の風物詩である諸子漁を詠んだ一句。銀鱗が跳ねる季節感あふれる佳句。

点滴の音なき音に冬日さす 池田ときえ

最高点句。ご自身の体験とか。点滴の一滴一滴は命を刻む滴り。病室の静寂と命への祈りが詠めた。

鯨来るこれぞ群来とや海白く 田中 信昭

群来とは北海道沿岸へ来遊する鯨の産卵群のこと。今年はこの現象が見られるという。夢再びか。

不忍の池に鳥影水温む 飯田富美子

不忍池に活発に遊ぶ鳥影を見た作者。ああ！もう春なんだ！と感慨を覚え、その感動を一句に。

孫嫁ぎ今年はお番のない雛 立川富美代

お目出たくて嬉しい話なのに寂しさも少し。お番のない雛もお役に立てたとホッとしたのでは。

乱世の始まり告ぐや春四番 馬場 征彦

今年も季節風が何度も吹いた。これも乱世の始まりか。国の内外から何やら軋む音が聞こえてくる。

薄氷に滲む緋色や池の鯉 渋谷 文雄

きれいな一句。若々しい感性は衰えを知らず。俳句は若返りの妙薬。これからは益々に期待大。

如月やもぐら叩きに四苦八苦 山形 忠顯

春の到来とともに、庭や畑を掘り返す厄介者のもぐら。もぐら対策に追われる自身をユーモラスに。

老い独り風に押されて麦を踏み 河合 和郎

農業従事者の高齢化が進み、農業の将来が心配される。麦踏みも一昔前の風物詩になってしまった。

編集後記 メール程度の PC との接触では、編集上の制約の多さ、難しさなどを改めて痛感した次第。いよいよ桜のシーズン。弘前城あたりまで行けば 1 か月後までは楽しめるのに旅行は駄目か。 情報委員会・佐々木 正